

別山・市ノ瀬道および観光新道で確認された希少ラン科植物

野上達也 石川県白山自然保護センター

OBSERVATION OF SOME RARE ORCHID IN BETSUSAN・ICHINOSEDO AND KANKOSHINDO TRAIL ON HAKUSAN

Tatsuya NOGAMI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

白山の山頂から赤兎山にかけての手取川の源流域となっている白山南部地域は、森林生態系保全調査報告書において重要な森林生態系地域としてあげられており、白山山系でも有数の良好なブナ林が存在し、山地帯から高山帯に至る生態系の垂直分布が見られ、希少な動植物も生息するとされている（財団法人自然環境研究センター，2001）。更に、同報告書では、森林生態系保全の課題として、調査研究と保護管理体制の充実があげられ、具体的には石川県白山自然保護センターを中心にした調査研究・保護管理体制の充実するとともに自然環境モニタリングを継続し、情報システムの充実に努めることとされている。また、2000年度にはいしかわレッドデータブックが発行され、石川県内における絶滅のおそれのある希少な野生生物の種のリストが公表された。その中で、種のほか亜種、変種も含め652種類の植物があげられているが、その中でラン科の植物は科別では最も多い163種類があげられている（石川県環境安全部自然保護課（編），2000）。

これまで、白山の希少なラン科植物についての現状調査としては、亜高山帯において大谷ほか（1999）によって石川県の絶滅のおそれのある野生生物＜植物編＞（2000）の絶滅危惧II類にランク付けされているハクサンチドリ（*Orchis aristata* Fischer）の調査が行われているが、その他のラン科植物についての調査は行われていない。本調査は、白山南部地域の登山道である別山・市ノ瀬道及び観光新道のブナ帯において希少ラン科植物についての調査を行ったので、その結果についてまとめたものである。

なお、調査にあたって協力していただいた（社）いしかわ環境パートナーシップ県民会議の皆様には感謝の意を表します。

調査範囲と結果

現地調査は、白山南部地域の登山道である別山・市ノ瀬道及び観光新道において実施した（図1）。別山・市ノ瀬道の調査は、登山口の市ノ瀬（標高860m）から水場（標高1,260m）までの間で、工用道路を除く約2kmについて2002年6月17日に行った。この植生は、下部のあたりはサワグルミやトチノキなどが優占する山地溪畔林であるジュウモンジシダ-サワグルミ群集で、標高が高くなってくると、高木層にブナが優占するチシマザサ-ブナ群



図1 調査地

国土地理院発行5万分の1地形図「越前勝山」,「白山」を使用。

団といった植生になっている(石川県白山自然保護センター(編), 1995)。また、観光新道の調査は、登山口である別当出合(標高1,260m)から白山禅定道との合流地点(標高1,670m)までの約2kmについて2002年6月24日に行った。この植生は、主に高木層にブナが優占するチシマザサ-ブナ群団になっている(石川県白山自然保護センター(編), 1995)。

それぞれの登山道沿いで希少ラン科植物の発見に努め、発見された場合に確認された種及び個体の高さや花の数、最大葉の幅や長さなどのほか、標高などを記録した。

その後、別山・市ノ瀬道は2003年6月10日、6月27日、2004年6月2日、6月6日、6月23日に、観光新道は2003年6月30日にも訪れ、その後の状況について調査した。

その結果、本調査では、石川県の絶滅のおそれのある野生生物<植物編>(2000)の絶滅危惧類にランク付けされているラン科植物のショウキラン(*Yuania japonica* Maxim.)が、絶滅危惧類にランク付けされているラン科植物ではコケイラン(*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.)とノビネチドリ(*Gymnadenia camtschtica* (Cham.) Miyabe et Kudo)が確認された。その他、絶滅危惧植物にはあがないが、ラン科サイハイラン属のサイハイラン(*Cremastra appendiculata* Makino)も確認された。以下、ショウキラン、コケイラン、ノビネチドリの各種について、調査結果を示す。

ショウキラン (*Yuania japonica* Maxim.)

(石川県カテゴリー：絶滅危惧類)

ショウキランは、ショウキラン属に属し、樹林下

表1 別山・市ノ瀬道及び観光新道で確認された希少ラン科植物

ショウキラン (*Yuania japonica* Maxim.)

No.	高さ(cm)	花数	花序の長さ (cm)	根元直径 (mm)	登山道	標高 (m)
1	18.0	3	-	7.5	別山・市ノ瀬道	1,020
2	22.0	3	-	9.7	別山・市ノ瀬道	1,120
3	8.5	3	-	8.5	別山・市ノ瀬道	1,120

コケイラン (*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.)

No.	高さ(cm)	花数	花序の長さ (cm)	根元直径 (mm)	葉の枚数	最大葉の幅 (cm)	最大葉の長さ (cm)	登山道	標高 (m)
1	49.5	15	15.0	3.5	2	3.5	31.5	別山・市ノ瀬道	1,020
2	40.0	17	9.5	3.3	2	4.5	39.0	別山・市ノ瀬道	1,040
3	41.0	22	9.5	3.7	2	4.0	31.5	別山・市ノ瀬道	1,040
4	44.0	15	15.0	3.5	0	-	-	別山・市ノ瀬道	1,040
5	51.0	32	17.5	4.0	2	3.5	36.0	別山・市ノ瀬道	1,040
6	34.5	28	13.0	3.4	0	-	-	観光新道	1,290
7	32.5	24	11.0	2.3	0	-	-	観光新道	1,290
8	38.5	26	13.5	2.9	0	-	-	観光新道	1,290
9	34.5	26	14.5	3.2	0	-	-	観光新道	1,290
10	48.0	24	16.0	3.8	0	-	-	観光新道	1,480
11	38.5	25	12.5	3.2	2	2.5	22.0	観光新道	1,480
平均	41.1	23.1	13.4	3.3		3.6	32.0		
標準偏差	6.0	5.2	2.5	0.4		0.7	5.8		

その他計測不可能な個体が観光新道の標高1,300m付近で7個体。

ノビネチドリ (*Gymnadenia camtschtica* (Cham.) Miyabe et Kudo)

No.	高さ(cm)	花数	花序の長さ (cm)	根元直径 (mm)	葉の枚数	最大葉の幅 (cm)	最大葉の長さ (cm)	登山道	標高 (m)
1	31.0	5	未計測	5.5	7	4.0	11.5	別山・市ノ瀬道	1,140

またはササ原にはえる地生の無葉緑腐生植物で、白色やや紅紫色を帯びた茎、淡紅色の花をつける（佐竹ほか，1982）。北海道西南部，本州，四国，九州・屋久島に分布し，石川県の隣接県では富山，福井，岐阜の各県に，石川県内では南加賀区（白山麓）に分布する（石川県環境安全部自然保護課（編），2000）。

2002年の調査では，観光新道では確認できず，別山・市ノ瀬道で2か所3個体が確認されたのみだった（表1のNo.2とNo.3が同一地点で確認された）。しかしながら，これらの個体全てが，その消失原因は不明であるが，2002年後同一地点を調査した2003年6月10日，同6月27日，2004年6月2日，同6日，23日では確認されなかった。

コケイラン（*Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.）

（石川県カテゴリー：絶滅危惧 類）

コケイランは，コケイラン属に属し，林内のやや湿った所にはえる地生の多年草で多数の黄褐色の花を総状につける（佐竹ほか，1982）。北海道，本州，四国，九州さらに南千島，樺太，カムチャッカ，ウスリー，朝鮮，中国（東北部）に分布し，石川県の隣接県では富山，福井，岐阜の各県に，石川県内では奥能登，口能登，加賀中央部，白山麓を含む南加賀区に分布する（石川県環境安全部自然保護課（編），2000）。

2002年の調査では，確認された3種の中では最も多い118個体が確認された。比較的まとまって見られることが多く，表1のNo.2からNo.5の4個体は，別山・市ノ瀬道のほぼ同一地点で，同じくNo.6からNo.9の4個体と個体の大きさの計測ができなかった7個体は，それぞれ観光新道の同一地点でまとまって成育しており，生育が確認されたのは6か所ということになる。

計測できた11個体については，個体の高さは 41.1 ± 6.0 cm（平均 \pm 標準偏差，以下同様），花数 23.1 ± 5.2 個，花序の長さ 13.4 ± 2.5 cm，根元直径 3.3 ± 0.4 mmで，葉をつけ，計測ができた4個体の最大葉の幅は 3.6 ± 0.7 cm，最大葉の長さは 32.0 ± 5.8 cmであった。

ノビネチドリ（*Gymnadenia conopsea* (L.) Cham.）

（石川県カテゴリー：絶滅危惧 類）

ノビネチドリは，テガタチドリ属に属し，山地の

樹林下の湿った所に生え，多数の淡紅紫色の花を穂状につける（佐竹ほか，1982）。北海道，本州（中部以北），四国，九州（宮崎県：現状は不明），さらに樺太，カムチャッカ，朝鮮に分布し，石川県の隣接県では富山，福井，岐阜の各県に，石川県内では奥能登，口能登，加賀中央部，南加賀区の白山麓に分布する（石川県環境安全部自然保護課（編），2000）。

2002年の調査では，別山・市ノ瀬道の標高1,140m地点で1個体が確認された。確認された場所は，ブナ林内を流れる小川近くで，かなり湿った環境下であった。調査範囲内では，1個体のみが確認されたが，それ以外に市ノ瀬から登山口へ至る間の工事用道路沿いでも数個体が確認されている。これらの地点は比較的乾燥したところであった。

2002年の調査で確認された個体は，2003年の調査でも同一個体と思われる個体が確認され，個体の高さは2002年調査時の31.0cmから41.5cmへ大きくなり，着けていた花の数も5個から14個へ増え，根元の直径も5.5mmから6.6mmへと太くなっていた。しかし，2004年6月2日には確認されたが，6月6日及び23日の調査では確認できなくなった。生育地点が崩壊するなど消失したわけではなかったため，盗掘の可能性が考えられる。

おわりに

石川県の絶滅のおそれのある野生生物＜植物編＞（2000）ではショウキラン，ノビネチドリは増減なし，コケイランは減少傾向にあるとなっているが，ショウキランは，調査した範囲では2002年以降2003年及び2004年には確認できなかった。コケイランについては本調査では最も個体数が多かったが，その変動については調査できなかったため，よくは分からなかった。いずれにしても，これら希少植物の数の動向を判断するには，わずかな期間の調査では不十分である。また，調査地周辺では，台風の大風などによりブナやトチノキの大木が折れ，林床の光環境など微環境が変化している場所もあり，今後も，これら希少な植物について引き続きモニタリングを継続していく必要があると考える。

一方，ノビネチドリについては，盗掘により採取されてしまったと考えられる個体があったが，業者による大量採取というよりも花が美しいことから個人が栽培目的で採取していった可能性が高いと思わ

れる。希少植物であるとは知らずに、また国立公園内では無許可では植物の採取ができないことを知らずに採取されているとも考えられることから、今後、盗掘防止のためのパトロールの強化を図るとともに、一般への国立公園及び希少植物についての更なる普及啓蒙を行うことで盗掘防止を図ることも必要だと考える。

文 献

石川県白山自然保護センター(編)(1995)白山地域植生図及び同説明書(現存植生図1:25,000 2葉).石川県白山自然保護センター,82pp.

石川県環境安全部自然保護課(編)(2000)石川県の絶滅のおそれのある野生生物<植物編>-いしかわレッドデータブック-.石川県環境安全部自然保護課,358pp.

大谷基泰・島田多喜子・野上達也(1995)白山別山油坂の頭付近のハクサンチドリの開花結実調査および無菌播種による増殖の試み.石川県白山自然保護センター研究報告,26,13-17.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨理俊次・富成忠夫(編)(1982)日本の野生植物 単子葉類.平凡社,305pp.

財団法人自然環境研究センター(2001)平成12年度 森林生態系保全調査報告書.財団法人自然環境研究センター,123pp.